

公益財団法人日本宇宙少年団 令和8年度 事業計画書

はじめに

公益財団法人日本宇宙少年団の活動は、全国の分団指導者や分団の英知と善意をもってその活動がなされており、その活動を賛助及びご寄附下さる関係各位のご理解とご支援により財団運営が遂行していることについて、心より感謝を申し上げます。

2026年は、財団設立40周年の節目の年となります。これまでの活動の歩みを振り返り、長年にわたり支えていただいた関係者の皆様への感謝の意を改めて表すとともに、宇宙教育活動を通して、次世代を担う子どもたちの好奇心を育み、宇宙への憧れや夢を広げていく取組を、今後も着実に推進してまいります。

上記を踏まえ、以下に今年度の各事業における具体的な取り組みを記載します。

I. 人材育成事業（公1）

未来を担う青少年に、宇宙及び科学をテーマとした体験・体感型学習を通して興味や関心を喚起させ、青少年の宇宙への夢を育む人材育成を目的に、以下の事業を行います。

1. スペースキャンプ事業
2. 情報発信事業
3. webによる普及啓発事業
4. 40周年記念事業（特定費用準備資金）
5. その他事業

1. スペースキャンプ事業

（1）種子島スペースキャンプ

ロケット打上げ射場のある種子島を中心に、「宇宙・自然・交流」をテーマとした体験学習を実施します。種子島では、JAXA増田宇宙通信所および種子島宇宙センターの施設見学に加え、シミュレーションを活用した水ロケットの製作あるいはモデルロケットの打上げプログラムを行います。

全国から集う小・中学生を対象に、実物や現場に触れる体験を通して宇宙分野への興味・関心および感動を喚起します。

時期：2027年3月下旬 春休み（3泊4日）

場所：鹿児島県・種子島

対象：小学4年生～中学生の団員及び一般

人数：40名

(2) 筑波スペースキャンプ

筑波宇宙センターの施設見学および、「陸・海・空・宇宙」をテーマとした体験型施設「ユメノバ」宇宙館において、宇宙ステーション「きぼう」を活用した宇宙飛行士模擬訓練体験を実施します。

宇宙飛行士に求められる心身共に鍛えることの大切さや宇宙開発現場におけるチームワークの重要性について、専門家による講義を行い、その理解を深めた上で、グループでの模擬体験を実施します。

時期：2026年8月上旬 夏休み（2泊3日）

場所：JAXA筑波宇宙センター、ザ・ヒロサワ・シティ「ユメノバ」

対象：小学4年生～中学生の団員及び一般

人数：30名

(3) 40周年記念 串本スペースキャンプ in 和歌山（3泊4日）

宇宙飛行士の野外訓練をテーマに、南紀熊野ジオパークを舞台として、惑星探査を模擬したグループ活動並びにシュノーケリング体験を通して、無重力環境下における作業の難しさを疑似体験するほか、民間発射場の見学などを実施します。

これらの体験を通して、仲間と協力して課題に挑戦する力やリーダーシップを育みます。

時期：2026年7月下旬 夏休み（3泊4日）

場所：和歌山県串本町

対象：小学4年生～中学生の団員及び一般

人数：30名

2. 情報発信事業

(1) 宇宙情報誌「宇宙のとびら」の発送

宇宙に関わる様々な分野や研究者の活動紹介、そして宇宙及び科学に関する最新のニュース、新しい科学の発見などを誌面で紹介し、子どもたちの宇宙及び科学に対する関心・好奇心を育むことを目的として宇宙情報誌「宇宙のとびら」の編集に協力します。

この「宇宙のとびら」はJAXA宇宙教育センター（発行）及び公益財団法人日本宇宙少年団（編集協力・団員配布）の連携により、年4回（6月、9月、12月、3月）発行し、団員や賛助企業等への発送をはじめ、分団活動や財団事業で配布し広報活動等に役立っています。

(2) YAC通信の発行

これから予定するイベントの告知や終了したイベントの報告、分団での活動紹介等の情報をまとめた「YAC通信」を年4回（6月、9月、12月、3月）発行し、「宇宙のとびら」と一緒に団員へ発送します。

(3) 付録教材の発送

子ども達の宇宙への興味・関心を高める簡易教材を開発し、寄附金等を活用して製作します。視覚的に魅力的で、楽しみながら学べる内容を提供し、家庭や分団で活用できる教材を目指します。

(4) 団員への送付物

入団に際し、団員特典として、新規団員は団員証、バッジ、パスポート、冊子、YAC通信、付録教材等を送付します。継続団員は団員証、パスポート、冊子、YAC通信、付録教材等を制作・送付します。

(5) 団員管理システムの維持管理

団員管理システムにより、分団活動及び団員一人一の個人情報の適切な管理に努めます。

また、昨年ホームページのリニューアルにより分団活動等ページを見やすくしましたので、分団活動情報の速やかな掲載を促し、常に新しい情報発信ができるよう分団とも連携していきます。

3. Webによる普及啓発活動

(1) 分団等連携団体との協力推進

①分団等との連携協力

宇宙及び科学技術を共通の題材とした子ども達の人材育成には全国の分団との連携協力が不可欠です。そのため、分団等連携団体との連携を図るため、活動委員会が中心となり、全国の宇宙少年団分団との協力推進を行うとともに、体系的な指導方法や共通した育成方法を毎年分団長が集う「分団長会議」の場で実践例を紹介し、意見交換及び交流等を行います。

併せて、財団設立40周年を祝う催しを計画し、今後の宇宙教育の展望について共有する機会とします。

なお、分団長会議の場において、活動委員会が提案する共通プログラムをウェブ上で開催し、各分団長の参加を促進します。今年度は、11月21日（土）および22日（日）の2日間、東京都内で開催予定とし、オンライン参加も可能とすることで、できるだけ多くの分団長の参加を促す計画です。

②活動委員会（第2号議案を参照）

分団等連携団体との協力の促進を図るために、活動委員会として、以下の取組みを継続し実施します。

- ・第15回衛星データ利用コンテスト
- ・だいち2号に写ろう！
- ・分団長会議の開催
- ・宇宙教育指導者セミナーの開催
- ・YAC分団の活動実態調査
- ・新たな挑戦地球型惑星を目指して
- ・YACかわら版
- ・宇宙教育誌の発行

③宇宙教育指導者セミナーの開催

社会教育団体活動の指導者育成を目的とするセミナー（高校生を除く18才以上を対象）を、JAXA宇宙教育センターと（公財）日本宇宙少年団が主催となり、全国の開

催地域と連携協力しながら、現地対面受講とオンライン受講を合わせたハイブリッド方式で年10回実施（予定）します。

（２）活動マニュアル等のweb公開

YAC指導員のみならず広く一般に、活動教材集や宇宙教育誌をwebで公開し、活動の素材提供、宇宙時代の教育について考える場、宇宙と教育についての考察の場、宇宙教育の実践研究報告の場を提供します。

（３）webを通したイベントの取組み

財団主催及び共催で実施するコンテストや団員のみならず広く一般を対象とするイベントなどの参加募集や実施結果等を、webを通して公開し、子ども達の宇宙及び科学に関する普及啓発を行います。また、YouTube Liveなどのライブ配信機能を活用し、全国各地の団員が宇宙について学び、質問ができる機会を提供します。

（４）講師派遣等

① 外部への講師派遣

広く一般を対象に、宇宙及び科学に関する知識の普及啓発や宇宙教育の推進を目的に、外部からの依頼により、リモートイベントや対面イベントに講師を派遣し、宇宙及び科学に関する知識の普及活動を行います。

② 連携団体（分団）への講師派遣

日本宇宙少年団分団からの講演依頼に対し、宇宙及び科学をテーマに合わせ、当財団理事及び相談役を派遣します。

4. 40周年記念事業（特定費用準備資金）

今年度40周年を迎えるにあたり、以下記念事業として実施を予定します。

① 串本スペースキャンプ in 和歌山（P2スペースキャンプ事業を参照）

② 記念グッズの製作

YACロゴと40周年を入れた記念グッズを団員や関係者に配布します。

③ 特別講演等

今年度のYAC大使である宇宙飛行士に講演あるいはオンラインで交流する機会を予定します。

5. その他事業

① Akamai財団（アメリカ企業）「グローバルSTEM教育助成金プログラム」へ3年目の申請し採択を受けました。これにより、今年度申請内容に基づきプログラム開発の更新及び実施を行います。

プログラムタイトル：モデルロケットを活用したSTEM教育の推進

モデルロケットを扱う指導者の育成を、財団40周年を契機に今後も宇宙教育活動プログラムとして継続していけるよう、ライセンスと併せて下地づくりを検討します。

② 三菱UFJ銀行の寄附金を受け、JAXA・YAC「コミュニケーションパズル」の第2弾のコミュニケーションパズルを製作し、6月定期発送物の付録教材として団員に送ります。

Ⅱ. 管理運営等

1. 評議員会

令和8年度 定時評議員会の開催（令和8年6月）

2. 理事会

決算理事会の開催（令和8年6月）

理事長及び専務理事の互選に伴う理事会の開催（令和8年7月）

予算理事会の開催（令和9年3月）

3. 会 員

活動委員会では、定期的に全国の分団活動状況調査や分団活動報告を確認し、全国の分団活動状況や活動計画を把握する手掛かりにしています。

日本宇宙少年団活動も40年という節目にあたり、多くの団員やリーダーが卒業しているため、元団員にもYACサポーターとなってもらえるよう、「YACフェロー」を広く周知していきます。

4. 事務局体制

事務局は、従来通り、事務局長と旅行業務取扱責任者を併任する常勤1名と事務局員常勤2名、非常勤1名の計4名体制で事業の運営及び管理業務に当たります。また、スペースキャンプ事業や助成を受けた活動の実施には支援要員を増やすことや、講師派遣等には当財団役員が講師となり、専門性を活かして積極的に関わります。

以上